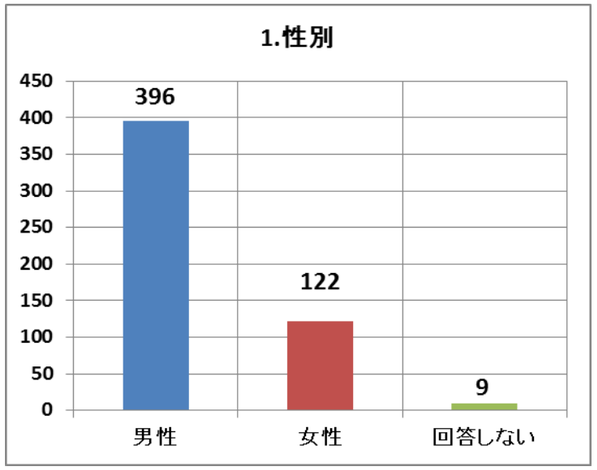
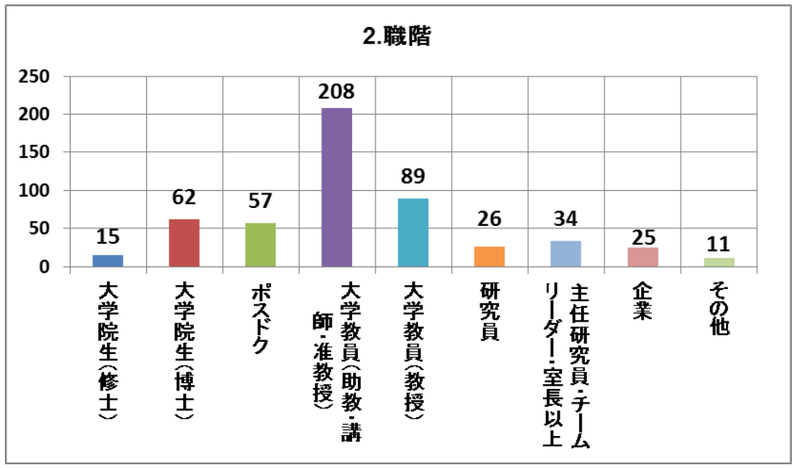
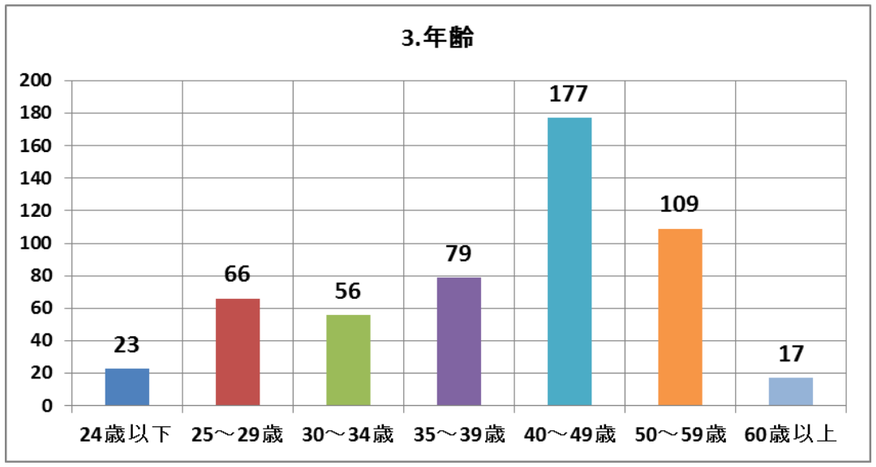
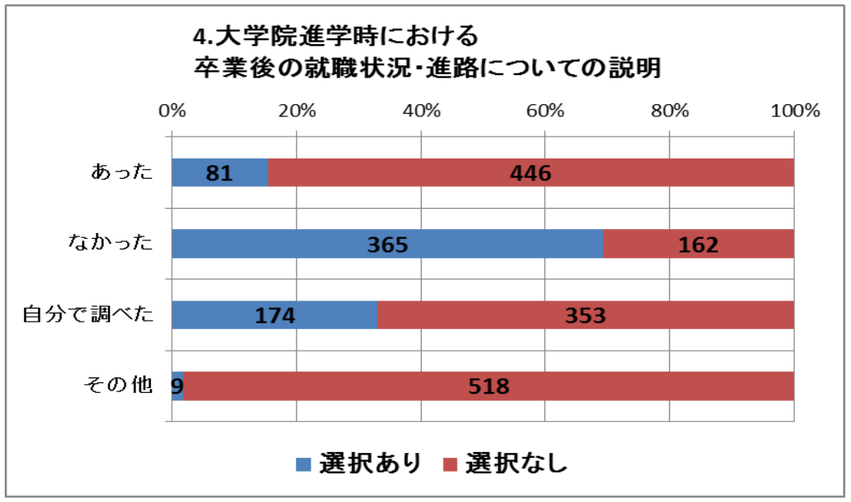
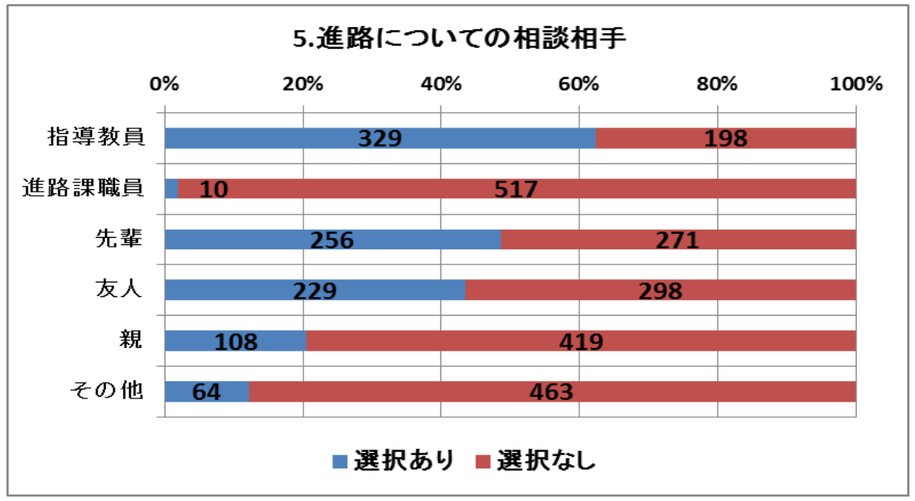
日本分子生物学会 「大学院教育」に関するアンケート
【アンケート実施期間】2016年5月27日（金）～6月10日（金） 【回答者数】527名（設問6～8は大学院生のみ：77名）

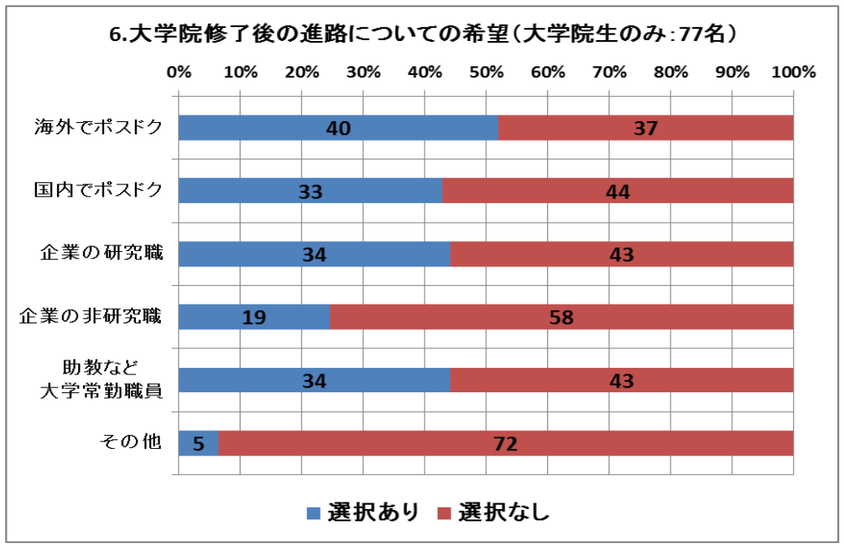


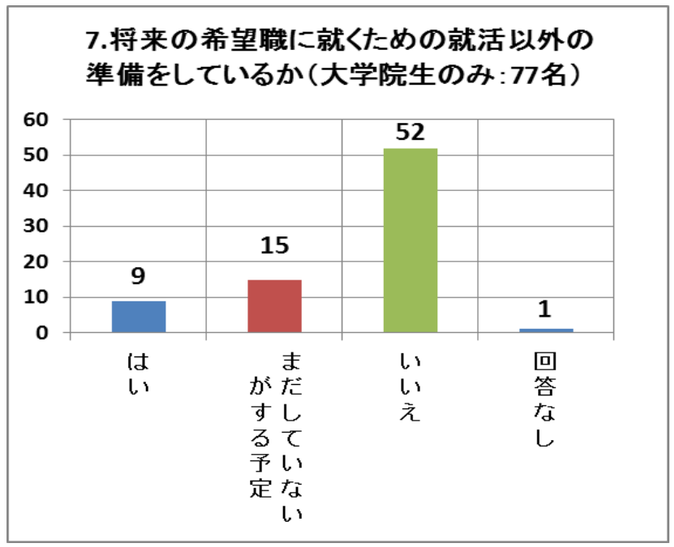


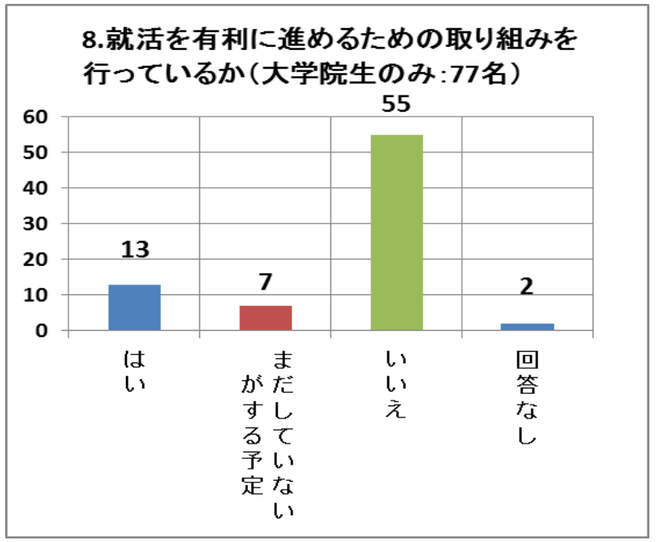


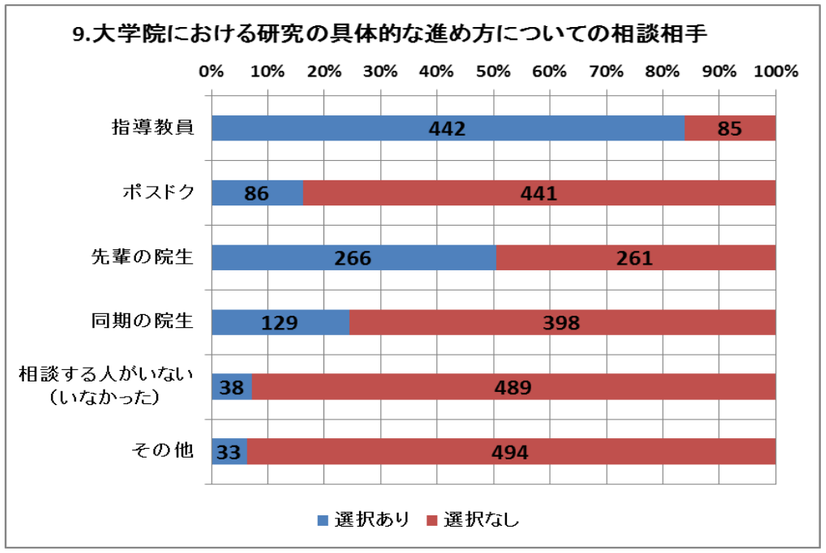


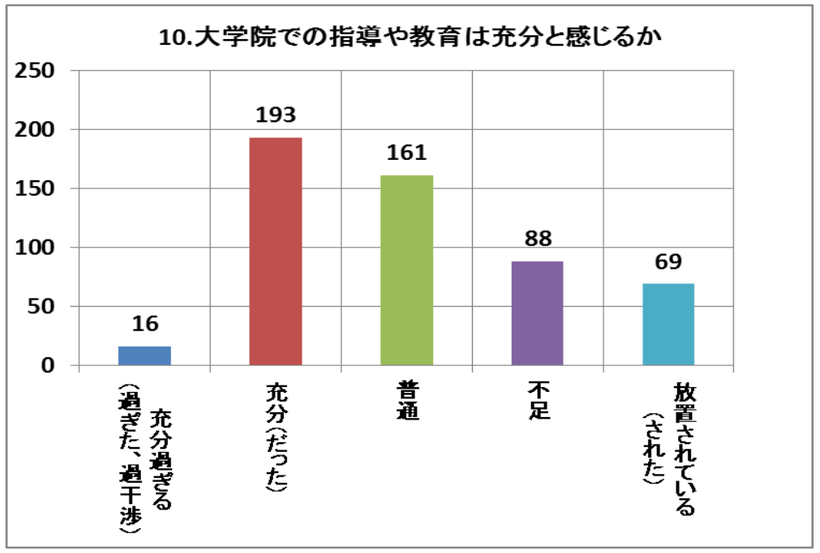


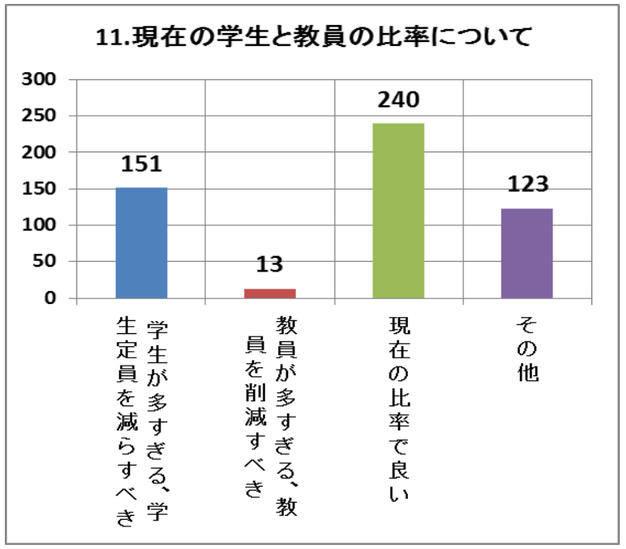


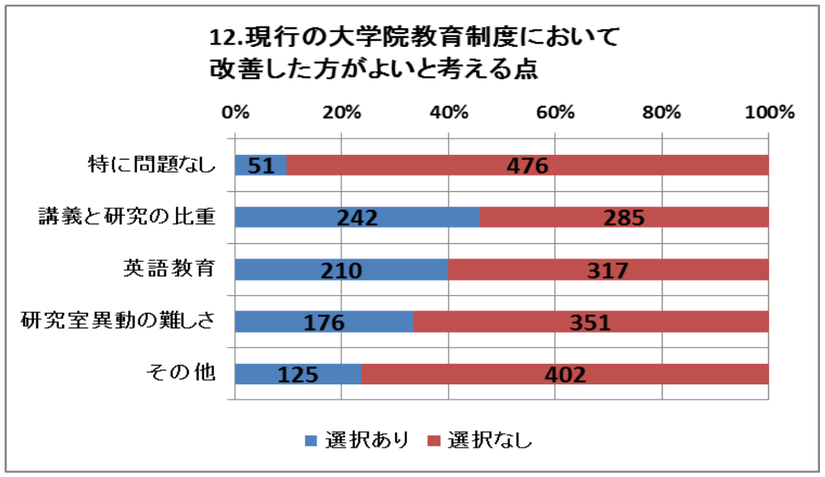


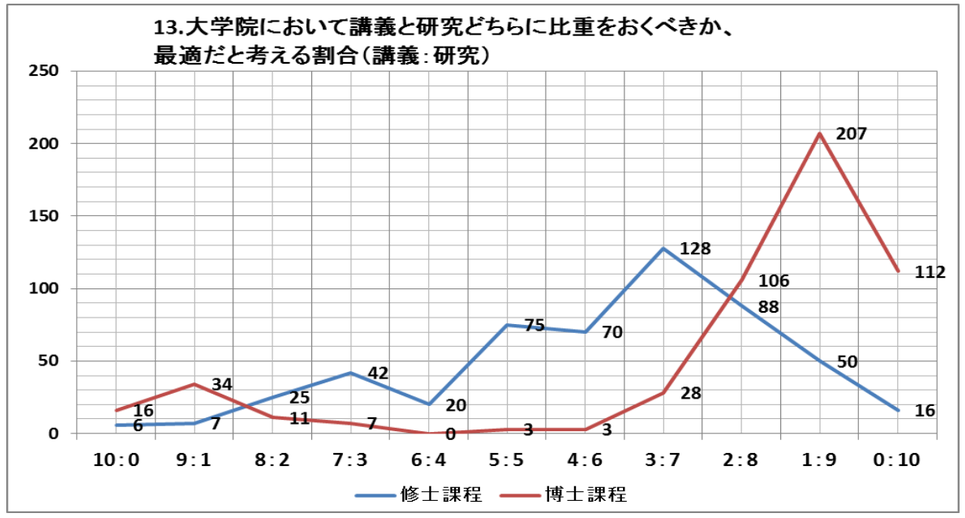


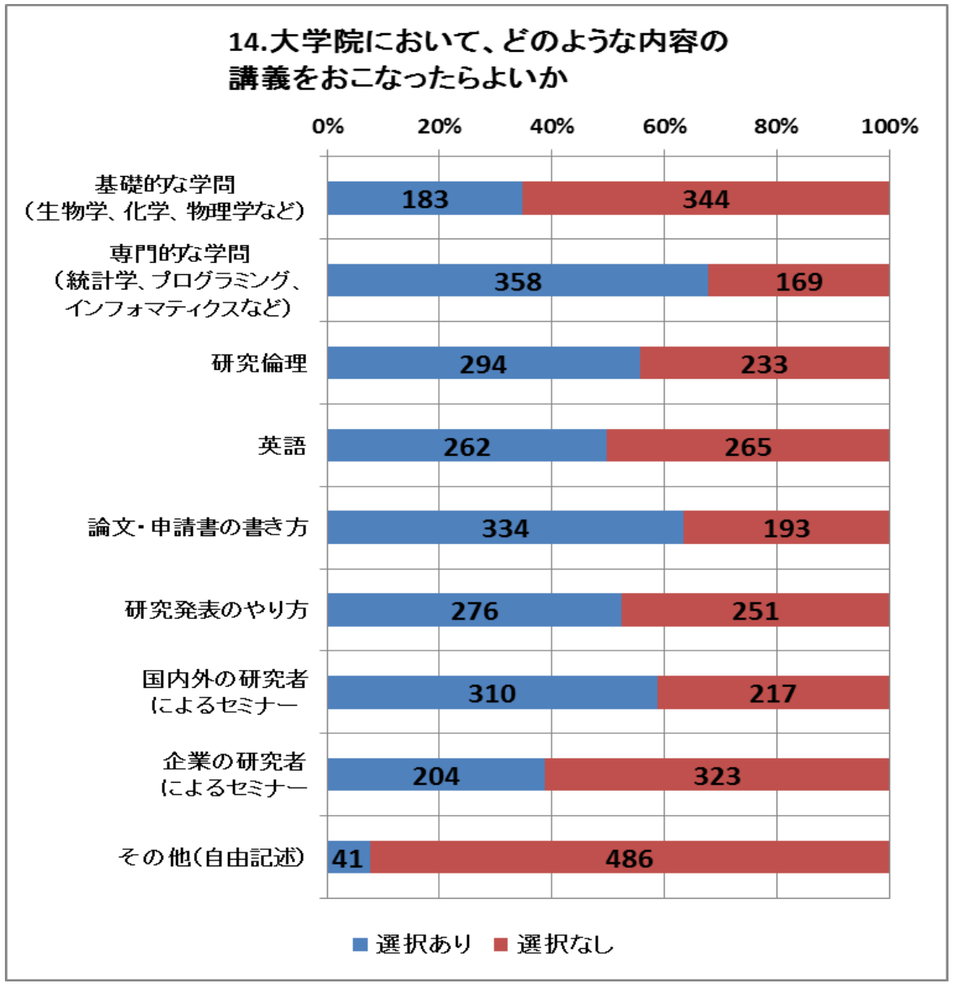
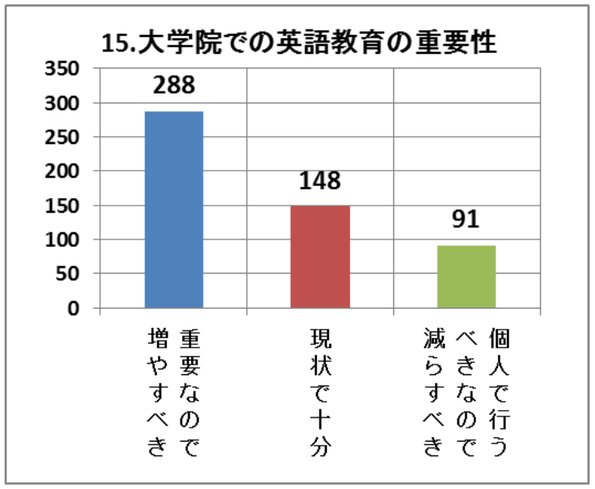
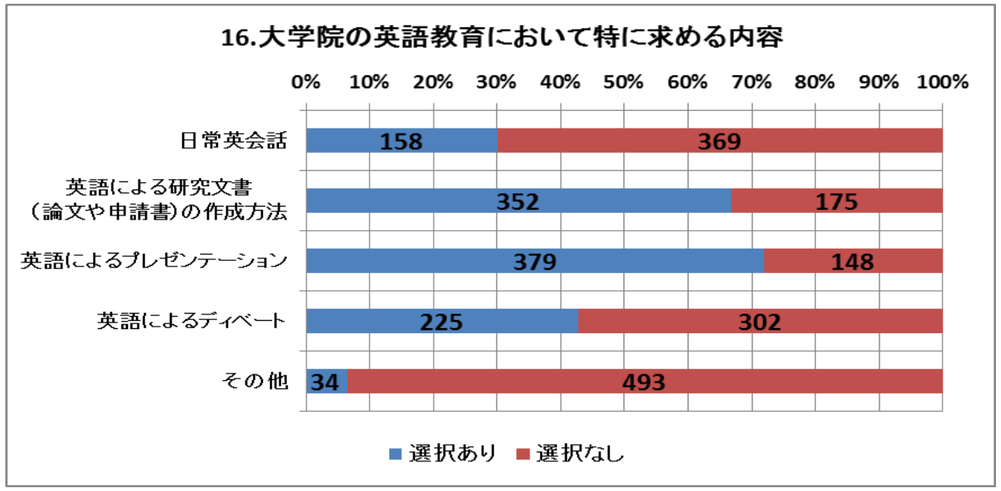
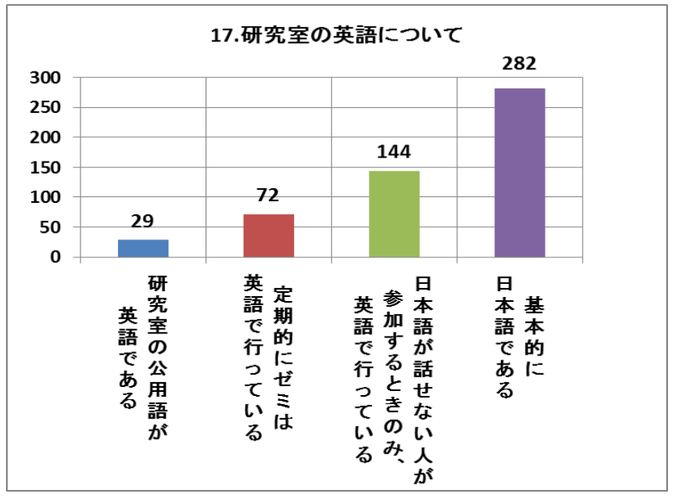
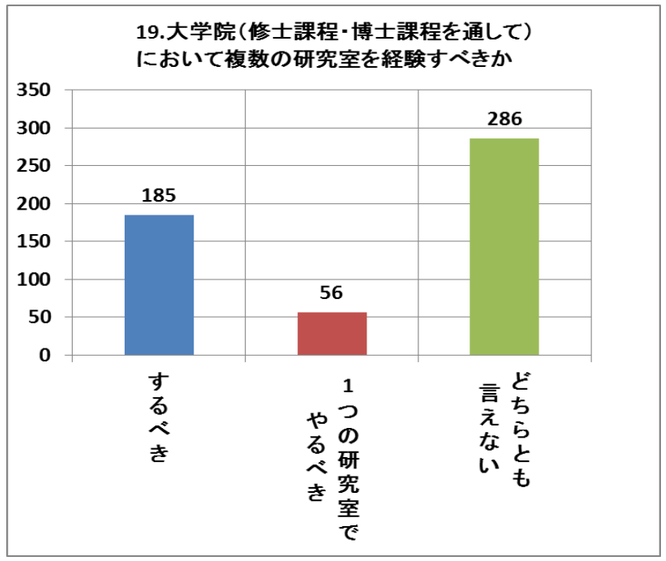
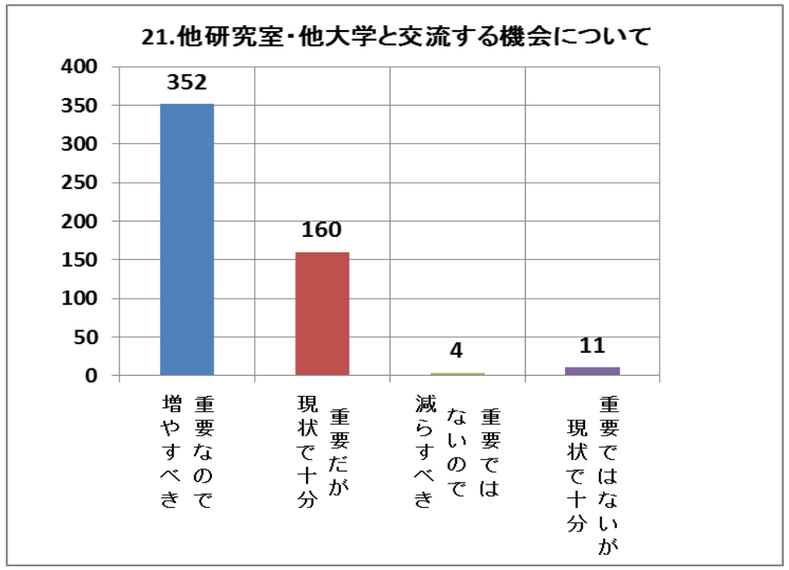
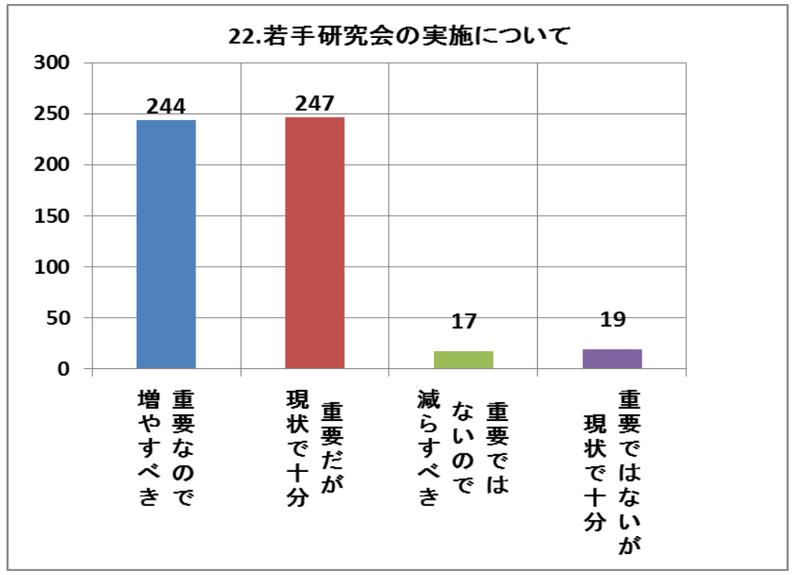

9.大学院における研究の具体的な進め方についての相談相手
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
指導教員
442
85
ポスドク
86
441
先輩の院生
266
261
同期の院生
129
398
相談する人がいない（いなかった）
38
489
その他
33
494
選択あり
選択なし


10.大学院での指導や教育は充分と感じるか
250
200
150
100
50
0
16
193
161
88
69
充分過ぎる（過ぎた、過干渉）
充分（だった）
普通
不足
放置されている（された）


11.現在の学生と教員の比率について
300
250
200
150
100
50
0
151
13
240
123
学生が多すぎる、学生定員を減らすべき
教員が多すぎる、教員を削減すべき
現在の比率で良い
その他


12.現行の大学院教育制度において改善した方がよいと考える点
0%
20%
40%
60%
80%
100%
特に問題なし
51
476
講義と研究の比重
242
285
英語教育
210
317
研究室異動の難しさ
176
351
その他
125
402
選択あり
選択なし


13.大学院において講義と研究どちらに比重をおくべきか、最適だと考える割合（講義：研究）
250
200
150
100
50
0
10：0
9：1
8：2
7：3
6：4
5：5
4：6
3：7
2：8
1：9
0：10
6
7
25
42
20
75
70
128
88
50
16
16
34
11
7
0
3
3
28
106
207
112
修士課程
博士課程


14.大学院において、どのような内容の講義をおこなったらよいか
0%
20%
40%
60%
80%
100%
基礎的な学問（生物学、化学、物理学など）
183
344
専門的な学問（統計学、プログラミング、インフォマティクスなど）
358
169
研究倫理
294
233
英語
262
265
論文・申請書の書き方
334
193
研究発表のやり方
276
251
国内外の研究者によるセミナー
310
217
企業の研究者によるセミナー
204
323
その他（自由記述）
41
486
選択あり
選択なし

日本分子生物学会 「大学院教育」に関するアンケート
【アンケート実施期間】2016年5月27日（金）～6月10日（金） 【回答者数】527名（設問6～8は大学院生のみ：77名）